

令和 8 年 度 学 校 経 営 計 画

1 学校教育目標

農の心を伝承する。
花を呼び寄せ、資質を磨く。
培った成果を発信する。

校訓

えいち 叡知	感性	畏敬
-----------	----	----

2 学校の特徴

本校は、昭和 26 年に富山県立出町高等学校若林分校として開校した。以来、農業教育の専門高校として地域の要望と期待に応え、郷土の農業を担う人材の育成に努めている。

平成 7 年からは生涯学習社会に対応して地域社会と連携した 3 つの学習機能（小矢部園芸高校、園芸カレッジ、園芸学習センター）の充実を図り、園芸科と専攻科園芸科を有する学校として歩んできた。

・ 定時制の課程 園芸科 昼間単位制

園芸に関する基礎的・基本的な知識と技術を学び身に付けるために、園芸に関する選択科目も含めて幅広く農業について学んでいる。また、各種資格取得・検定に取り組み、増加単位として認定している。

インターンシップでは、県内の委託実習の勤労体験学習を行っている。

また、日本学校農業クラブ連盟の各種競技会・各種発表会や定時制の体育活動・高文連活動において全国大会にも毎年出場し、成果をあげている。

・ 専攻科 園芸科

園芸系列と造園系列を設置し、幅広い年齢層の方々を対象とし、それぞれの専門分野における知識・技術について学ぶとともに、生涯学習の一端を担っている。

・ 園芸学習センター

地域住民に園芸相談を行っている。

3 学校の現状と課題

（1）現状

本校生徒は課題研究や農業実習など、体験的な学習を通して、野菜、草花、造園に関する技術や生産・経営面について幅広く学習している。生徒は素直で黙々と物事をこなすが、消極的な面が見られる。

実験・実習を上手くこなし、生徒会活動への参加や資格取得、各種大会へ出場し、成功体験により自信をつけ、積極的に挑戦できるよう重点を置きたい。

（2）課題

- ① 基礎学力の向上及び資格取得
- ② 農業教育の充実・発展
- ③ 基本的生活習慣の確立

(様式 2)

4 学校教育計画

項 目		目 標・方針及び計画	
(1)	校務運営	目 標	・運営組織の活用を図り、適切・円滑な学校運営を目指す。
		計 画	・校務の各分掌相互の連携を密にし、校務運営委員会、各種委員会、職員会議等とおして全職員の共通理解を深め、学校の活性化を図る。
(2)	教育課程	目 標	・学習指導要領を踏まえ、生徒の実態及び学科の特色を活かした教育課程を編成する。
		計 画	・基礎・基本を重視しながら学力の向上を図る。 ・多様な生徒に応じた適切な指導法を研究する。 ・先端技術を積極的に取り入れ、適性や希望により選択して学習できるよう草花・野菜・造園の3系列を設ける。
(3)	学習活動 重点 1	目 標	・学習習慣を身に付け、基礎学力の定着を図るとともに、それらを活用する能力を養う。 ・生徒の実態に応じたわかる授業の実践を通して、学問に対する探究心を育成する。
		計 画	・資格取得を奨励し合格に向け学習させることで、学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る。 ・長期休業中に課題図書を出し、読書や感想文を書く機会を増やす。 ・互見授業、ICT の活用、各種研修会とおして授業の改善を図る。 ・『学習の手引き』を活用し、生徒が科目の目標をとらえて学習できるようにする。
(4)	学校生活① ・特別活動 重点 2	目 標	・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
		計 画	・時間管理に重点を置き、 基本的学習習慣の確立 を図る。 ・全校生徒へ呼びかけや声かけ、また活動掲示板の活用などにより、 ボランティア活動を推進 する。 ・地域の環境美化整備活動を行う。
(5)	進路支援 重点 3	目 標	・生徒が希望に沿った進路の実現を図る。
		計 画	・個別面接の機会をとおして 進路意識を高め 、望ましい人生観や職業観を身に付けさせる。 ・個別指導（面談や作文指導）により、 進路実現に必要な能力を養成 する。
(6)	学校生活② 重点 4	目 標	・自らの命を大切にし、周りとともに、より健康に生きようとする意欲を育てる。 ・特別な教育的支援が必要な生徒の早期発見に努め、全教員で支援に取り組む体制を確立し指導にあたる。
		計 画	・定期的に生徒保健委員会を実施し、委員会活動の見直しを行い、活動を充実させることにより、 生徒の健康増進と環境美化への意識を高める 。 ・ 教育相談連絡会 を定期的に開き、全教職員で指導の共通理解を図る。スクールカウンセラーや関係機関等の助言の下、 特別支援教育・教育相談の充実 を図る。
(7)	学習活動 (専門教科) 重点 5	目 標	・農業の各分野における様々な学習、体験等や研修会を通し、専門教科を学ぶことの楽しさや自信をもたせる。
		計 画	・資格や検定の取得に向け、教科内の実習や農業クラブ活動等と連動させて計画的に指導するとともに、 農業学習への意欲につながるよう指導 する。 ・実習や保護者面談をとおし、生徒及び保護者に、学習活動を活かし インターンシップ等に積極的に参加 するように促す。

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和8年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の向上と授業改善	
現 状	・学習の基礎となる「読む」「書く」「計算する」力が十分ではない生徒がみられる。 ・スマートフォンの操作には長けているが、基本的なPC操作の技術を習得していない生徒がみられる。 ・生徒が一人一台学習用端末を持つことを効果的に生かす学習活動について、研究を行う必要がある。 ・教員間で、ICTの活用における意識やスキルに個人差がある。	
達成目標	①互見授業および校内外の研修会等への教員一人あたりの参加回数 互見授業 6回、研修会 2回以上	②生徒の授業への満足度 80%以上
方 策	・ICT活用を推進するための校内研修会を実施する。 ・互見授業を通して授業技術の向上をはかり、学習教材の精選や指導方法の工夫に活かす。 ・互見授業期間を設定し教員だけでなく保護者等へも授業が参観できるよう告知する。	・全生徒へ授業や学習についての実態把握のためのアンケート年間に2回程度実施し、結果を授業に生かす。 ・授業や課外活動などのさまざまな場面で学習用端末等を活用し、生徒に文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトなど、基本的なPC機能を使用させる。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和8年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン — 2 —		
重点項目	学校生活①・特別活動	
重点課題	基本的な生活習慣の確立及びボランティア等校外活動の推進	
現 状	・基本的生活習慣が確立されていないまま、曖昧に過ごしている生徒が少なからず見受けられる。これまでの継続した指導により大幅に改善されたこともあるが、再び目標が達成されなくなったため、目標数値を設定し継続して指導していきたい。 ・地域と密着したボランティア活動として、本校の特色をいかした花プランター配布や社会福祉施設などでの雪吊り・雪囲い等を行なっている。 ・全校生徒で年2回実施している「清掃美化活動」について、地域への貢献や奉仕の精神に関心を持たせる恒例行事として定着してきた。コロナ禍であっても達成されてきたので、再度目標値を設定し検証したい。	
達成目標	①年間遅刻回数 全生徒で延べ100回以下	②ボランティア活動参加回数 一人あたり4.0回以上
方 策	・時間を守り、挨拶が自然に交わせるよう雰囲気づくりに努める。 ・遅刻を繰り返す生徒への個別指導に重点を置き、また、遅刻防止と共に挨拶や服装指導も含め、声かけの機会を多く設けるなど、習慣付けを図る。	・全校への積極的な呼びかけ、声かけと共にボランティア活動の積極的PRに努める。 ・各種研修会への積極的参加を促す。 ・地域と連携した環境美化活動の推進

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和8年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン — 3 —

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路実現に必要な能力の育成	
現 状	・卒業生の進路先数が狭いので、生徒が具体的な将来像を広く描きにくい。 ・将来の進路に対する意識が漠然としており、目標を設定することに困難を感じる生徒がいる。 ・進路実現に必要な基礎学力や基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいる。 ・コミュニケーション能力等、社会人として必要な基本的能力が不十分な生徒がいる。	
達成目標	① 個人面接の実施回数 ＊生徒一人あたりの年間の回数 1・2年次生 5回以上 3年次生 10回以上	② 進路希望実現率 ＊進学及び就職を希望する者のうち 100%
方 策	・個別面接の機会を増やし進路意識の高揚を図ると共に、望ましい人生観や職業観を身に付けさせる。 ・日頃の授業を大切に、基本的な礼儀の定着と、基礎学力の向上に努めさせ、適切な進路の選択を支援する。 ・年次担当者と連携して、年次ごとの段階に応じた進路意識や知識を高めていく。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和8年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	学校生活②	
重点課題	基本的生活習慣・教育相談	
現 状	・家庭環境や友人関係などさまざまな悩みを抱えていることで、身体の不調や心の不安定を訴えたり、スマートフォンやゲームの長時間使用などで基本的生活習慣が乱れていたりする生徒が多く見受けられる。 ・専門家の支援を要する生徒が複数いる一方で、全教職員による指導支援の体制がまだ十分に確立されていない。	
達成目標	①生活調査を実施し、改善が必要な生徒に保健指導を行い、基本的生活習慣を整える。また生徒保健委員会の開催により健康への関心や知識の向上を図る。 年5回以上開催	②スクールカウンセラーや特別支援教育巡回指導員の面談指導を充実させ、生徒の心の成長を図る。 ・面談の実施後における、当該生徒、保護者等に対する満足度70%以上
方 策	・機会をとらえ、人間関係づくり、身だしなみや生活習慣など心身に関わるテーマで、グループ指導や個別指導を実施する。 ・委員会活動を通して健康や美化活動に関心を持たせ、生活習慣の確立を目指す。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和８年度 小矢部園芸高等学校アクションプラン ―５―

重点項目	学習活動（専門教科）	
重点課題	農業学習の意欲向上	
現 状	・資格・検定に興味や関心を持つ生徒が減少傾向にある。 ・農業クラブ農業技術検定、危険物取扱者試験、造園技能士（３級）等の資格取得の取り組みと授業との連携が希薄である。 ・農業教科に興味や関心の低い生徒がいる。	
達成目標	①農業・園芸関連の資格や検定の受検者数と取得資格数の増加 ・危険物取扱者資格取得延べ３名以上 ・造園技能士 ３名以上 ・農業クラブ技術検定 延べ１５名以上 ・農業クラブ県大会入賞 ２名以上 ・農業クラブ全国大会入賞 ２名以上	②県内委託実習（インターンシップ）や校外での農業に関する体験者（販売実習や造園ボランティアなど） ・県内委託実習 ４名以上 ・就農青年育成懇談会 １０名以上 ・校外での販売実習 ２回以上 ・県農教振本部事業 ３名以上 ・その他ボランティア活動延べ３０名以上
方 策	・資格取得の必要性を説き、受検意欲を高める。 ・年間の資格・検定取得について示し、計画を立てて学習させる。 ・教科内実習・農業クラブ活動・補習等と連動させて計画的に指導する。	・進路特別講座、企業訪問、学校見学を通し、具体的に進路先について考えさせる。 ・個別指導（面接、小論文、作文指導等）を通し、進路実現に向けた適切な指導を行う。 ・就職支援機関・保護者と連携を図る。

（評価基準 Ａ：達成した Ｂ：ほぼ達成した Ｃ：あまり達成しなかった Ｄ：達成しなかった）